



2024年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年9月12日

上場会社名 株式会社シャノン 上場取引所 東
コード番号 3976 URL <https://shanon.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 健一郎
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 CFO兼経営管理本部長 (氏名) 友清 学 TEL (03) 6743-1551
配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無: 有
決算説明会開催の有無: 有 (当社ウェブサイトにて決算説明動画を配信予定)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年10月期第3四半期の連結業績 (2023年11月1日～2024年7月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年10月期第3四半期	2,275	11.7	△134	-	△134	-	△136	-
2023年10月期第3四半期	2,037	18.8	△303	-	△313	-	△460	-

(注) 包括利益 2024年10月期第3四半期 △134百万円 (-%) 2023年10月期第3四半期 △460百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年10月期第3四半期	△42.83	-
2023年10月期第3四半期	△152.33	-

(注) 1. 2023年10月期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額のため、記載しておりません。

2. 2024年10月期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額のため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年10月期第3四半期	2,435	△86	△3.8
2023年10月期	2,024	39	1.9

(参考) 自己資本 2024年10月期第3四半期 △92百万円 2023年10月期 38百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年10月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年10月期	-	0.00	-	-	-
2024年10月期 (予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年10月期の連結業績予想 (2023年11月1日～2024年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,275	11.6	32	-	30	-	10	-	3.15

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2024年10月期3Q	3,180,700株	2023年10月期	3,173,900株
2024年10月期3Q	254株	2023年10月期	254株
2024年10月期3Q	3,178,188株	2023年10月期3Q	3,020,550株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足資料及び決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2024年9月13日(金)に、決算説明動画を公開する予定です。また、決算説明動画の書き起こしも、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当社グループが属するクラウドサービス市場においては、クラウドサービスを利用している企業の割合は引き続き上昇傾向にあります。総務省の令和5年「通信利用動向調査」によると、2023年度末におけるクラウドサービス利用企業の割合は77.7%（前年72.2%）に拡大しています。また、同調査によると、資本金規模別のクラウドサービス利用状況においても、資本金規模を問わずその利用率は拡大傾向が続いています。このように成長を続けるクラウドサービス市場の中で、当社が属するマーケティングオートメーション（SaaS）分野も例外ではなく、今後も6.0%（2023～2028年度の年平均成長率）の市場成長率が見込まれています。また、当社が提供する他のサービス（CMSやCX/マーケティングスイート分野）も含めると今後10.1%（2023～2028年度の年平均成長率）の市場成長率が見込まれています（出典：株式会社富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場2024年版」）。なお、当社以外にもSFAサービス等の提供も行っており、各市場自体の成長やソリューションの拡大に伴うTAMの拡大による今後の当社事業の成長余力は高いものと認識しております。

一方で、コロナ禍で影響を受けていた当社のマーケティング活動やイベントクラウド事業においては、コロナ禍を脱し、社会活動を取り戻しつつある中で、コロナ禍で培ったウェビナーを活用した自社マーケティング活動を継続しつつも、リアル展示会への出展や、リアルイベント開催への回帰の動きが鮮明となってきています。

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間における売上高については、サブスクリプション事業を中心に概ね順調に推移しました。また、費用面については、近年、中期的な成長加速を実現するために積極的な採用を行ってきたことで人件費を中心に増加傾向が続いておりましたが、前期からの採用抑制や人事異動による人員の有効活用等により前年同期比で減少となっており、その分全体の収益性も改善傾向にあります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの売上高は2,275,610千円（前年同期比11.7%増）、営業損失は134,060千円（前年同期は営業損失303,413千円）、経常損失は134,915千円（前年同期は経常損失313,750千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は136,132千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失460,114千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

セグメント名称	内容
サブスクリプション事業	<p>■サブスクリプション（年間契約）</p> <p>MA、CMSのシステム利用料</p> <p>MRR（月額契約金額）、従量課金、有償保守サービス、年間契約のBPOサービス</p>
	<p>■プロフェッショナル</p> <p>MA、CMSに関する初期導入サービス、BPOサービス、WEB制作、マーケティングコンサルティング等</p>
イベントクラウド事業	SMPを用いたイベントのシステム支援（バーチャルイベントに関するシステム構築費を含む）、会期当日支援（機材レンタルを含む）
広告事業	デジタル広告の運用、コンサルティング
メタバース事業	株式会社ジクウが提供するメタバースイベントプラットフォームのシステム利用料、従量課金、初期導入サービス、BPOサービス等

①サブスクリプション事業

サブスクリプション事業は、「SHANON MARKETING PLATFORM」を中心とする年間利用契約に関する売上（サブスクリプション）とそれに付随する初期導入やコンサルティングサービス等の売上（プロフェッショナル）から構成されています。

当第3四半期連結累計期間における売上高については、最重点方針として取り組んでいるサブスクリプション売上は、大口顧客を中心に順調に推移し、予算を上回る推移となりました。また、プロフェッショナル売上についても、概ね順調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるサブスクリプション売上は1,192,628千円（前年同期比14.6%増）、プロフェッショナル売上は553,096千円（前年同期比24.0%増）、サブスクリプション事業全体の売上高は1,745,724千円（前年同期比17.4%増）、営業利益は132,968千円（前年同期比155.8%増）となりました。また、当第3四半期連結会計期間末における契約アカウント数は、545アカウント（前期末比△1.3%減）となりました。

②イベントクラウド事業

イベントクラウド事業は、前期後半からリアルイベント開催への回帰の傾向が鮮明となり、当社のイベントクラウド事業を取り巻く市場環境は改善してきています。当第3四半期連結累計期間においては、大型イベントの会期が少なかったため、前年同期比で減収となりましたが、通期予算達成に向けた受注は順調に推移しております。また、生産性向上に向けた取り組みの成果も徐々に見え始め、収益率は改善傾向にあります。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は300,580千円（前年同期比12.3%減）、営業利益は8,092千円（前年同期は営業損失14,093千円）となりました。

③メタバース事業

メタバース事業は、リアルイベントへの回帰の流れは一部逆風となるものの、影響を受けるプライベートショーや展示会だけでなく、大学や自治体での活用、ウェビナー、採用イベントやマッチングイベント、ショールームなどの案件、社内イベント、周年イベントなど活用シーンにも一層の広がりが出てきております。今後も多様化する活用シーンをしっかりと受注獲得機会に繋げられるように、積極的な事例公開や追加の機能開発にも引き続き取り組んでいます。また、当第3四半期連結累計期間においては年間契約となる案件受注も発生しています。なお、費用面については現状に併せて体制を見直したことにより前年同期よりも大幅に縮小しています。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は28,435千円（前年同期比17.2%増）、営業損失は16,515千円（前年同期は営業損失53,829千円）となりました。

④広告事業

広告事業は、国内初のサードパーティークッキーに依存しないクッキーレス型のダイナミックリターゲティング広告の受注は予算には及ばなかったものの順調に受注を重ねています。また、既存の大口顧客の動向も計画に対して順調に推移しています。一方で子会社を主体とした広告運用サービスに関する受注も順調ではあるものの、現在の組織体制に対して十分とは言えず、採算性は少し悪化する結果となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は200,869千円（前年同期比9.1%増）、営業損失は12,771千円（前年同期は営業利益1,143千円）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、2,435,953千円（前連結会計年度末2,024,290千円）となり、411,662千円の増加となりました。このうち、流動資産は1,461,480千円（前連結会計年度末1,108,143千円）となり、353,336千円の増加となりました。この主な要因は、受取手形、売掛金及び契約資産が97,215千円減少した一方で、現金及び預金が442,193千円増加したことによるものであります。また、固定資産は963,419千円（前連結会計年度末906,602千円）となり、56,817千円の増加となりました。この主な要因は、のれんが33,848千円減少した一方で、投資その他の資産に含まれる敷金が82,566千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、2,522,353千円（前連結会計年度末1,984,756千円）となり、537,597千円の増加となりました。このうち、流動負債は1,207,333千円（前連結会計年度末1,048,244千円）となり、159,088千円の増加となりました。この主な要因は、前受金が172,223千円増加したことによるものであります。また、固定負債は1,315,020千円（前連結会計年度末936,512千円）となり、378,508千円の増加となりました。この主な要因は、長期借入金が101,078千円減少した一方で、社債が479,586千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、△86,400千円（前連結会計年度末39,534千円）となり、125,934千円の減少となりました。この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失を136,132千円計上したことにより利益剰余金が136,132千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年10月期の通期の業績予想につきましては変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	400,862	843,055
受取手形、売掛金及び契約資産	491,197	393,982
仕掛品	50,902	48,943
その他	165,181	175,498
流動資産合計	1,108,143	1,461,480
固定資産		
有形固定資産	42,971	33,631
無形固定資産		
ソフトウェア	361,997	349,722
ソフトウェア仮勘定	30,476	38,053
のれん	209,566	175,718
その他	7,336	8,489
無形固定資産合計	609,377	571,984
投資その他の資産	254,252	357,803
固定資産合計	906,602	963,419
繰延資産	9,545	11,053
資産合計	2,024,290	2,435,953
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	119,047	95,583
1年内返済予定の長期借入金	157,158	138,695
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
未払法人税等	14,534	13,424
前受金	452,164	624,387
賞与引当金	56,070	46,524
受注損失引当金	—	121
その他	209,269	248,597
流動負債合計	1,048,244	1,207,333
固定負債		
社債	694,460	1,174,046
長期借入金	242,052	140,974
固定負債合計	936,512	1,315,020
負債合計	1,984,756	2,522,353
純資産の部		
株主資本		
資本金	548,276	550,010
資本剰余金	193,349	195,083
利益剰余金	△711,357	△847,489
自己株式	△485	△485
株主資本合計	29,783	△102,881
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	390	—
為替換算調整勘定	8,388	10,803
その他の包括利益累計額合計	8,778	10,803
新株予約権	971	5,677
非支配株主持分	—	—
純資産合計	39,534	△86,400
負債純資産合計	2,024,290	2,435,953

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)
売上高	2,037,904	2,275,610
売上原価	755,004	920,387
売上総利益	1,282,899	1,355,223
販売費及び一般管理費	1,586,313	1,489,283
営業損失(△)	△303,413	△134,060
営業外収益		
受取利息	24	588
受取手数料	119	99
助成金収入	7,612	7,353
その他	1,684	1,333
営業外収益合計	9,440	9,375
営業外費用		
支払利息	3,692	2,903
社債利息	438	300
為替差損	664	2,969
社債発行費償却	7,254	4,057
保険解約損	7,531	—
その他	194	—
営業外費用合計	19,776	10,230
経常損失(△)	△313,750	△134,915
特別損失		
減損損失	144,291	—
特別損失合計	144,291	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△458,041	△134,915
法人税、住民税及び事業税	2,072	1,217
法人税等合計	2,072	1,217
四半期純損失(△)	△460,114	△136,132
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△460,114	△136,132

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)
四半期純損失(△)	△460,114	△136,132
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	242	△390
為替換算調整勘定	△656	2,414
その他の包括利益合計	△414	2,024
四半期包括利益	△460,528	△134,108
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△460,528	△134,108
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)
減価償却費	128,596千円	112,305千円
のれんの償却額	20,461	33,848

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間（自 2022年11月1日 至 2023年7月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	サブスクリプション事業	イベントクラウド事業	メタバース事業	広告事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,486,848	342,702	24,254	184,099	2,037,904	—	2,037,904
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,325	—	1,857	1,580	5,763	△5,763	—
計	1,489,173	342,702	26,112	185,679	2,043,668	△5,763	2,037,904
セグメント利益又は損失(△)	51,985	△14,093	△53,829	1,143	△14,795	△288,618	△303,413

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△288,618千円には、セグメント間取引消去288千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△288,907千円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の一般管理費です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る減損損失)

メタバース事業セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上は、当第3四半期連結累計期間においては144,291千円であります。

Ⅱ. 当第3四半期連結累計期間(自2023年11月1日至2024年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	サブスクリプション事業	イベントクラウド事業	メタバース事業	広告事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,745,724	300,580	28,435	200,869	2,275,610	—	2,275,610
セグメント間の内部売上高又は振替高	189	—	7,769	3,768	11,727	△11,727	—
計	1,745,914	300,580	36,205	204,637	2,287,338	△11,727	2,275,610
セグメント利益又は損失(△)	132,968	8,092	△16,515	△12,771	111,774	△245,834	△134,060

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△245,834千円には、セグメント間取引消去288千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△246,123千円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の一般管理費です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。